

医療技術学研究科

視能矯正学専攻

看護学専攻

診療放射線学専攻

臨床検査学専攻

救急救護学専攻

目 次

Ⅲ－Ⅰ． 医療技術学研究科全専攻共通

(1) 教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	1
(2) 行事予定	2
(3) 履修の手引き	3
(4) オフィスアワー	5
(5) 事務取扱時間	5
(6) 学位授与	6
(7) 博士論文の公表	7

Ⅲ－Ⅱ． 視能矯正学専攻

(1) 教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	9
(2) 授業科目一覧・修了要件	10
(3) カリキュラムマップ	12
(4) 指導教員一覧	14

Ⅲ－Ⅲ． 看護学専攻

(1) 教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	15
(2) 授業科目一覧・修了要件	16
(3) カリキュラムマップ	19
(4) 指導教員一覧	21

Ⅲ－Ⅳ． 診療放射線学専攻

(1) 教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	23
(2) 授業科目一覧・修了要件	25
(3) カリキュラムマップ	35
(4) 医学物理士認定機構ガイドラインカリキュラム対応表・履修モデル	39
(5) 指導教員一覧	41

Ⅲ－Ⅴ． 臨床検査学専攻

(1) 教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	43
(2) 授業科目一覧・修了要件	44
(3) カリキュラムマップ	46
(4) 指導教員一覧	48

Ⅲ－Ⅵ． 救急救護学専攻

(1) 教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	49
(2) 授業科目一覧・修了要件	50
(3) カリキュラムマップ	51
(4) 指導教員一覧	52

I. 医療技術学研究科全専攻共通

(1) 教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

*教育目的

医療技術学研究科は、建学の精神に則り、社会の要望にこたえるため、高度先進医療に対応した専門医療職を目指すとともに、教育・研究面で指導的立場で活躍できる人間性豊かな人材の育成を目的とする。

*ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

医療技術学研究科は、高い人間性と高度先進医療を担える専門的学識・技能を有し、また教育研究の指導ができる人材の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 各専攻が掲げる高度な専門的知識を有し、その技術を実践することができる。
2. 自ら問題を的確にとらえて解決し、発表することができる。
3. 医療技術の進歩や社会情勢の変化に適応する生涯学習態度および教育指導態度を有する。

*カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

学位授与に要求される能力を修得するために、医療技術学研究科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 各専攻が掲げる高度な専門的知識を獲得し、その技術を実践できるようにするための科目を編成する。
2. 課題への探求心と解決能力および発表能力を修得するために、指導教員のもとに主体的に研究を遂行し、学位論文を作成・発表する科目を編成する。
3. 医療技術の進歩や社会情勢の変化に適応できる能力および教育指導力を高めるための科目を編成する。

(2) 2020年度 行事予定

【前期】

健康診断	2020 年	4 月 3 日（金）、6 日（月）
全体ガイダンス		4 月 3 日（金）
入学式		4 月 4 日（土）
専攻別ガイダンス		4 月上旬 ※必要に応じて専攻教員が実施
前期授業開始		4 月 6 日（月）
履修科目申告書提出期限		4 月 17 日（金）
創立記念日		6 月 29 日（月）

【後期】

後期授業開始	2020 年	10 月 1 日（木）
論文提出最終締切 （修了年次生）	2021 年	1 月 8 日（金）16：45 まで ※郵送不可、期日厳守
論文審査 （修了年次生）		1 月～2 月上旬
修了式・学位記授与式 （修了年次生）		3 月第 3 週頃

※日程は諸事情により変更となる場合がある。

※博士後期課程については研究計画と進捗状況確認のための研究発表（中間発表）を 2 年次に行う。修士・博士前期課程においても必要に応じて実施する場合がある。

※論文提出最終締切日までに、論文審査に必要な書類をすべて揃え、事務部教務課窓口
取扱い時間内に提出すること。（原則として郵送不可）特に博士後期課程は申請時に
レフェリー制度を備え定期刊行されている学術誌または電子ジャーナルにて公表さ
れている（もしくは公表されることが決定している）必要があるため、早い段階から
指導教員と相談し、計画を立てること。

(3) 履修の手引き

1. 履修

[1] 履修登録

- ①履修科目については指導教員と相談のうえ決定すること。「履修科目申告書」を、4月第3金曜日までに事務部教務課（医療技術学部担当）窓口に出すこと。
- ②申告後に履修科目を変更する場合には、指導教員および各授業担当教員の承認を得たうえ、速やかに事務部教務課（医療技術学部担当）に報告すること。
- ③申告しない科目については履修できない場合があるので注意すること。
- ④1年間に履修できる単位の上限は、視能矯正学・看護学・診療放射線学・臨床検査学専攻については原則30単位、救急救護学専攻については原則24単位とする。ただし、成績優秀者には上限単位を超えた履修を認めることがある。
- ⑤最終年次には、特別研究・特殊研究に専念することになるが、希望者はその他の講義・演習科目の履修も可能とする。
- ⑥eラーニングによる倫理教育「eLCoRE」の修了が確認できない場合は、特別研究・特殊研究の履修はできない。
- ⑦他研究科で開講している以下の科目を自由科目として履修可能。ただし、修了要件には含まない。

◎医学研究科

「国際感染症・危機管理学特論」

◎ハーバード特別講義（公衆衛生学研究科主催）

「特別講義（疫学）」、「特別講義（生物統計学）」、「特別講義（行動科学）」、「特別講義（保健医療政策学）」、「特別講義（産業環境保健学）」

修士・博士前期・博士後期課程とも受講が可能かつ履修学年の制限はない。ただし、1年生で3コマ、2年生で3コマ受講のように年度・学年をまたいでの受講は不可。また、単位修得した科目については、課程・学年問わず、再受講はできない。

⑧科目ナンバリング

シラバスに記載されている科目ナンバーの分類ルールは下表のとおり。

研究科		専攻		科目分類		水準		連番
K	共通	0	共通	A	共通科目	0	共通	01～99
T	医療技術学研究科	1	視能矯正学専攻	B	基礎科目	1	修士・博士前期課程レベル	
		2	看護学専攻	C	専門科目	2	博士後期課程レベル	
		3	診療放射線学専攻	D	専門実習科目			
		4	臨床検査学専攻	Z	教養科目			
		5	救急救護学専攻					

[2] 修了要件

【修士・博士前期課程】

全専攻共通

- ① 2年以上在学すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績をあげた者については、当該課程に1年以上在学すれば、足りるものとする。
- ② 当該専攻の授業科目から必要単位数を修得すること。
- ③ 必要な研究指導を受けること。
- ④ 修士論文の審査および試験に合格すること。

【博士後期課程】

全専攻共通

- ① 3年以上在学すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績をあげた者については、当該課程に1年以上在学すれば、足りるものとする。なお、修士課程、博士前期課程または専門職学位課程の在学期間とあわせ、3年以上在学していなければならない。
- ② 当該専攻の授業科目から必要単位数を修得すること。
- ③ 必要な研究指導を受けること。
- ④ 博士論文の審査および試験に合格すること。

※いずれの課程も上記②に記載のある「必要単位数」については、各専攻の「(2) 授業科目一覧・修了要件」のページで確認すること。

[3] 講義

- ① 授業時間割表と実際の開講時間が変更となる場合があるので、担当教員に前もって確認しておくこと。
- ② 講義を欠席する場合は、担当教員に連絡を入れること。なお、出席が、出席すべき授業時間数の3分の2に満たない場合には、当該科目についての受験資格を失う。

2. 成績

[1] 単位

単位は学修時間をもとに決められており、授業の方法および授業の教育効果などを考慮し1単位は45時間（講義の場合、授業15時間、予習15時間、復習15時間）の学修が基準となっている。

[2] 試験

試験の実施日時については、担当教員から指示される。

〔3〕評価基準

評価基準は以下のとおり。

評点	評価	可否
100～90 点	S	合格
89～80 点	A	合格
79～70 点	B	合格
69～60 点	C	合格
0～59 点	D	不合格

〔4〕G P A制度について

G P A (Grade Point Average)制度とは、学修の成果を客観的な数値で評価するもので、米欧の大学で採用している成績評価制度に概ね準拠している。G P Aスコアは2.5以上を確保することが望ましく、1.0以下のものは退学勧告の対象となる。

〔G P Aの算出方法〕

$$4.0 \times S \text{ の修得単位数} + 3.0 \times A \text{ の修得単位数} + 2.0 \times B \text{ の修得単位数} + 1.0 \times C \text{ の修得単位数}$$

総履修登録単位数（「不合格」の単位数を含む）

〔5〕倫理教育について

1年次に、eラーニングによる倫理教育「eLCoRE」の受講を必須としている。受講後、修了証のコピーを事務部に提出すること。修了が確認できない場合、「特別研究」（修士・博士前期課程）・「特殊研究」（博士後期課程）の履修は認めない。修了証のコピー提出期限は9月最終金曜日とするが、なるべく早い時期で受講すること。受講についての詳細は後日連絡する。

（4）オフィスアワー

本学には、オフィスアワー制度が設けられている。オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんの授業履修、学業成績あるいは学生生活についての相談を受けながら、コミュニケーションを深め、アドバイスすることによって、より良い大学生活を送ってもらうために設けられた、授業以外の時間のことをいう。相談時間については、別途掲示などで周知するが、該当する時間であっても、出張や会議等の理由から教員が不在となる場合がある。

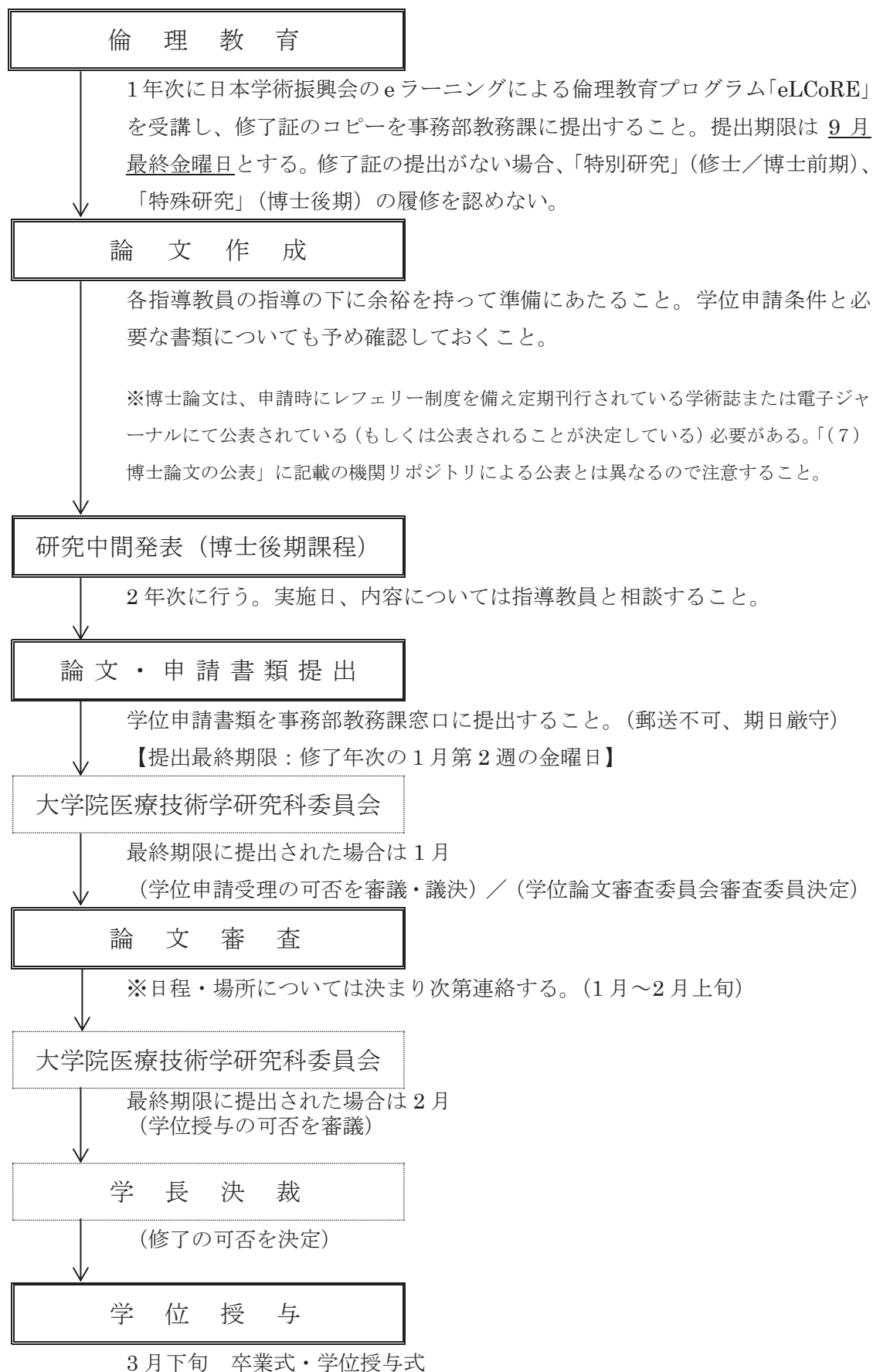
（5）事務取扱時間

月曜日～金曜日 8:45～16:45、土曜日 8:45～12:00

※日曜日、祝祭日、振替休日、年末年始休日（12月29日～1月3日）、創立記念日（6月29日）は取り扱わない。その他、学校行事（入学試験、学園祭等）で取り扱わない日もある。

(6) 学位授与

1. 日程



※博士後期課程の場合は論文の研究計画（課題、目的・動機・意義・方法・データ分析方法など）と進捗状況確認のための研究発表（中間発表）を2年次に行う。

※学位申請書類を提出するにあたっては、以下の URL より、規程および手引きを確認し、不備のないようにすること。

http://www.med.teikyo-u.ac.jp/~gakui/iryou/src/iryou_top.html

2. 学位

修了要件を満たしたものに下表の学位を授与する。

専攻	課程の区分	授与学位
視能矯正学専攻	博士前期課程	修士(視能矯正学)
	博士後期課程	博士(視能矯正学)
看護学専攻	博士前期課程	修士(看護学)
	博士後期課程	博士(看護学)
診療放射線学専攻	博士前期課程	修士(診療放射線学)
	博士後期課程	博士(診療放射線学)
臨床検査学専攻	博士前期課程	修士(臨床検査学)
	博士後期課程	博士(臨床検査学)
救急救護学専攻	修士課程	修士(救急救護学)

(7) 博士論文の公表

博士論文の公表方法については、学位規則の一部を改正する省令（平成25年文部科学省令第5号）により、2013年4月1日以降に博士の学位を授与されたものは博士論文の全文をインターネットの利用により公表することに変更された。

本研究科においては、「帝京大学学位規程」ならびに「帝京大学大学院医学研究科、薬学研究科、医療技術学研究科、公衆衛生学研究科 博士論文公表に関する施行細則」に基づき、博士論文を公表する。博士論文には、課程によらない博士論文（乙博士）も含まれる。

1. 公表の方法

「帝京大学学術機関リポジトリ」により公表する。本学の論文等保存・公開システムである機関リポジトリは、国立情報学研究所がメタデータを自動収集しており、そのデータが国立国会図書館にも供給されている。したがって、博士の学位を授与した者については、本学の機関リポジトリを利用することでインターネット上での公表が可能となる。

2. 公表までの流れ

- ①学位申請しようとする論文について、インターネットによる博士論文全文公表が可能なことを確認する。公表できないやむを得ない事由は「個人情報保護」、「著作権保護」、「多重公表の禁止」、「特許申請」などが該当する。特に著作権等については必ず掲載先に確認すること。
- ②論文申請時に、学位論文要旨および全文の電子ファイル（PDF）、機関リポジトリ入力フォーム（EXCEL）、「博士論文全文のインターネット公表確認書」を事務部に提出すること。**※公表の可否を問わず、その証拠となる書類の提出が必要となる。著作権等について、出版社等からの回答がわかるものを添付すること。**
- ③学位を授与された日から 3 ヶ月以内に、学位論文要旨および審査の結果の要旨を公表する。
- ④学位を授与された日から 1 年以内に博士論文全文を公表する。ただし、論文全文を公表できないやむを得ない事由があると医療技術学研究科にて承認された場合は、論文全文に代えて論文要約を公表する。
- ⑤やむを得ない事由がなくなったときは、すみやかに博士論文全文を公表する。

3. 規程

1. 「帝京大学学位規程」
2. 「帝京大学大学院医学研究科、薬学研究科、医療技術学研究科、公衆衛生学研究科、博士論文公表に関する施行細則」
3. 「帝京大学大学院医療技術学研究科学位運用規程」
4. 「帝京大学大学院医療技術学研究科学位（修士）論文審査要領」
5. 「帝京大学大学院医療技術学研究科学位（博士）論文審査要領」

（１）教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

＊教育目的

視能矯正学専攻は、医療技術学研究科の目的に則り、科学的な思考法、観察力、判断力、専門性を備えた眼科検査・視能訓練実践者、研究者、教育者の育成を目的とする。

＊ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

視能矯正学専攻は、優れた実践者・研究者・教育者として、高度な眼科検査技術を備えた視能訓練士の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修め、学位論文審査および試験に合格した者に対して学位を授与する。

博士前期課程

1. 視能矯正学の基盤となる学識を習得し実践することができる。
2. 視能矯正・視能訓練において専門的な検査・診断の評価をふまえ、斜視手術法に参画できる。
3. 視覚の機序と病態を理解し、次世代教育活動に従事できる。

博士後期課程

1. 視能矯正学の知見を高め、実践することができる。
2. 視能矯正・視能訓練において専門的な検査・診断の評価をふまえ、斜視手術法に参画できる。
3. 視覚の機序と病態を理解し、より高度な教育・研究を推進することができる。

＊カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

学位授与に要求される能力を修得するために、視能矯正学専攻は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

博士前期課程

1. 両眼視機能全般について高度な専門知識・技術を修得するため、「両眼視機能診断学」、「両眼視機能治療学」を必修科目として配置する。
2. 個々の研究テーマに関連した高度な専門知識・技術を修得するため、「眼筋機能病理学」、「眼筋機能回復学」、「視覚機能検査学」、「視覚機能訓練学」、「視覚機能病態学Ⅰ・Ⅱ」を選択科目として配置する。
3. 修士論文の作成など教育研究および発表能力を養成するための研究プログラムを行うため、「視能矯正学特別研究」を必修科目として配置する。

博士後期課程

1. 視能矯正学に関する様々な研究テーマに対応するため、「両眼視機能学」、「眼筋機能学」、「視覚機能学」、「視覚機能病態学」に関する科目を選択科目として配置する。
2. 個々の研究テーマについて深く考察し、学位論文の作成に不可欠な教育、研究マインドと発表能力の開発のため「視能矯正学特殊研究」を必修科目として配置する。

(2)授業科目一覧

視能矯正学専攻【博士前期課程】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	両眼視機能診断学講義	1	2			○			教授 臼井千恵 教授(客) 久保田伸枝
	両眼視機能診断学演習	1		2			○		教授 臼井千恵
	両眼視機能治療学講義	1	2			○			教授 松岡久美子 教授(客) 久保田伸枝
	両眼視機能治療学演習	1		2			○		教授 松岡久美子
	眼筋機能病理学講義	1		2		○			教授 林孝雄
	眼筋機能病理学演習	2		2			○		教授 林孝雄
	眼筋機能回復学講義	1		2		○			教授 林孝雄
	眼筋機能回復学演習	1		2			○		教授 林孝雄
	視覚機能検査学講義	1		2		○			教授 木田淳子 教授(客) 久保田伸枝
	視覚機能検査学演習	1		2			○		教授 木田淳子
	視覚機能訓練学講義	1		2		○			教授 松岡久美子 准教授 林弘美 講師 野川由紀
	視覚機能訓練学演習	2		2			○		教授 松岡久美子 准教授 林弘美 講師 野川由紀
	視覚機能病態学Ⅰ講義	1		2		○			講師 大鹿京子
	視覚機能病態学Ⅰ演習	2		2			○		講師 大鹿京子
	視覚機能病態学Ⅱ講義	1		2		○			教授 小林克彦
	視覚機能病態学Ⅱ演習	2		2			○		教授 小林克彦
	視能矯正学特別研究	2	6				○		教授 林孝雄 教授 木田淳子 教授 松岡久美子 教授 小林克彦 教授 臼井千恵 准教授 金子博行 准教授 林弘美 准教授 池田結佳 講師 野川由紀 講師 渡部維 講師 大鹿京子 講師 佐々木翔 助教 広田雅和
	小計(17科目)	—	10	28	0	—			
教養科目	国際感染症・危機管理学特論	1又は2			1	○			教授 鈴木和男
	特別講義（疫学）	1又は2			1	○			Murray Mittleman
	特別講義（生物統計学）	1又は2			1	○			Garrett Fitzmaurice
	特別講義（行動科学）	1又は2			1	○			Ichiro Kawachi
	特別講義（保健医療政策学）	1又は2			1	○			Alastair Gray
	特別講義（産業環境保健学）	1又は2			1	○			Rose Goldman
	小計(6科目)	—			6				
合計(23科目)		—	10	28	6	—			
修了要件及び履修方法									
専門科目から必修科目10単位を含む30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。									

視能矯正学専攻【博士後期課程】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	両眼視機能学特論	1・2		2		○			教授 臼井千恵
	眼筋機能学特論	1・2		2		○			教授 林孝雄
	視覚機能学特論	1・2		2		○			教授 松岡久美子 講師 野川由紀 准教授 林弘美
	視覚機能病態学特論	1・2		2		○			教授 小林克彦 特任教授 小林義治
	視能矯正学特殊研究	2～3	12				○		教授 林孝雄 教授 松岡久美子 教授 臼井千恵 准教授 林弘美 講師 野川由紀 講師 大鹿京子 助教 広田雅和 教授 木田淳子 教授 小林克彦 准教授 金子博行 准教授 池田結佳 講師 渡部維 講師 佐々木翔
	小計(5科目)	—	12	8	0	—			
教養科目	国際感染症・危機管理学特論	1・2・3の いずれか			1	○			教授 鈴木和男
	特別講義（疫学）	1・2・3の いずれか			1	○			Murray Mittleman
	特別講義（生物統計学）	1・2・3の いずれか			1	○			Garrett Fitzmaurice
	特別講義（行動科学）	1・2・3の いずれか			1	○			Ichiro Kawachi
	特別講義（保健医療政策学）	1・2・3の いずれか			1	○			Alastair Gray
	特別講義（産業環境保健学）	1・2・3の いずれか			1	○			Rose Goldman
	小計(6科目)	—			6				
合計(11科目)		—	12	8	6	—			
修了要件及び履修方法									
専門科目から視能矯正学特殊研究12単位を含む16単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること。									

(3)2020年度 カリキュラムマップ

視能矯正学専攻【博士前期課程】

	DP1 視能矯正学の基盤となる学識を習得し実践することができる。	DP2 視能矯正・視能訓練において専門的な検査・診断の評価をふまえ、斜視手術法に参画できる。	DP3 視覚の機序と病態を理解し、次世代教育活動に従事できる。
2年		視覚機能訓練学演習	眼筋機能病理学演習 視覚機能病態学Ⅰ演習 視覚機能病態学Ⅱ演習 ●視能矯正学特別研究
1年	●両眼視機能診断学講義 両眼視機能診断学演習 視覚機能検査学講義 視覚機能検査学演習	●両眼視機能治療学講義 両眼視機能治療学演習 眼筋機能回復学講義 眼筋機能回復学演習 視覚機能訓練学講義	眼筋機能病理学講義 視覚機能病態学Ⅰ講義 視覚機能病態学Ⅱ講義

●は必修科目

視能矯正学専攻【博士後期課程】

	DP1 視能矯正学の知見を高め、実践することができる。	DP2 視能矯正・視能訓練において専門的な検査・診断の評価をふまえ、斜視手術法に参画できる。	DP3 視覚の機序と病態を理解し、より高度な教育・研究を推進することができる。
3年			●視能矯正学特殊研究
2年	視覚機能学特論	両眼視機能学特論 眼筋機能学特論	●視能矯正学特殊研究 視覚機能病態学特論
1年	視覚機能学特論	両眼視機能学特論 眼筋機能学特論	両眼視機能学特論 眼筋機能学特論

●は必修科目

(4)指導教員一覧

職名	氏名	研究内容
教授	林 孝 雄	眼振および斜視の病態と治療に関する研究
教授	木 田 淳 子	生理光学と神経疾患に関する研究
教授	松 岡 久 美 子	視能訓練および視野検査に関する研究
教授	小 林 克 彦	光学解析に関する研究と眼光学機器の解析
教授	臼 井 千 恵	弱視・斜視の病態と視能訓練に関する研究
准教授	金 子 博 行	外眼疾患および画像診断に関する研究
准教授	林 弘 美	リハビリテーションと介護に関する研究
准教授	池 田 結 佳	読書時の眼球運動の解析
講師	野 川 由 紀	視覚と心理アプローチに関する研究
講師	渡 部 維	弱視発生の分子生物学に関する研究
講師	大 鹿 京 子	生理学と眼科疾患（主に前眼部）の病態と治療に関する研究
講師	佐 々 木 翔	斜視・両眼視機能検査に関する研究

（１）教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

＊教育目的

看護学専攻は、医療技術学研究科の目的に則り、人間の尊厳を基盤として、看護学を創造的・実践的に発展させ、複雑化・高度化する社会環境の中で多様化しているニーズに対応できる、看護分野の高度な専門性を備えた実践者、管理者、研究者、教育者の育成を目的とする。

＊ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

看護学専攻は、人間の尊厳を基盤として、看護学を創造的・実践的に発展させ、看護分野の高度な専門性を備えた実践者、管理者、研究者、教育者の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修め、学位論文審査および試験に合格した者に対して学位を授与する。

博士前期課程

1. 看護の専門職として主体的に学び、倫理的な判断・行動ができる。
2. 複雑化・高度化する社会環境・医療の中で、多様化するニーズを把握し、看護上の課題を述べることができる。
3. 実践者、管理者、研究者、教育者として必要な、より専門的な知識・技術を説明できる。
4. 看護学や看護実践における課題を選択し、研究を行うことができる。

博士後期課程

1. 変化する社会環境・医療の中で、適時に多様性をもってニーズを把握し、看護上の課題を述べるができる。
2. 実践者、管理者、研究者、教育者として高度な看護学の知識を説明できる。
3. 看護学や看護実践に貢献できる独自性のある研究を行うことができる。

＊カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

学位授与に要求される能力を修得するために、看護学専攻は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

博士前期課程

1. 複雑な健康問題を有する対象のフィジカルアセスメントの能力、高度な倫理的判断・調整能力、看護実践・教育を行う上で必要な教育的・管理能力を育成するため、共通科目群を配置する。
2. 個々の研究テーマに関連した高度な専門的知識・技術を修得するため、各看護学領域の専門科目群を配置する。
3. 看護学の理論や研究方法を専門的に学び、個々の研究テーマに従い、一連の研究プロセスを体験し、教育・研究・理論開発するための初歩の能力を育成するため、各看護学領域の「特別研究」を配置する。

博士後期課程

個々の研究テーマに従い、自立して研究・理論開発するための能力を育成するため、各看護学領域に特論と特殊研究を配置する。

(2)授業科目一覧

看護学専攻【博士前期課程】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				授業形態			担当教員
			必修	必修 選択	選択	自由	講義	演習	実験・ 実習	
共通科目	看護教育論	1後			2		○			准教授 砂見緩子
	看護管理論	1後			2		○			准教授 伊豆上智子
	看護理論	1前			2		○			教授 松澤和正
	看護研究	1前	2					○		教授 南川雅子 教授 林さとみ
	コンサルテーション論	1後			2		○			講師 石見和世
	看護倫理	1前	2				○			准教授 冲永隆子
	看護政策論	1前			2		○			准教授 伊豆上智子
	保健統計	1前	2				○			講師 根本明日香 教授 山岡和枝 教授 松浦正明
	フィジカルアセスメント	1通			2		○			教授 林さとみ
	病態生理	1後			2		○			教授 関順彦 准教授 渡邊清高 講師 市川靖子 助教 太田修二 助教 本田健 助教 丹澤盛
	臨床薬理学	1前			2		○			教授 青山晃治
	小計（11科目）	—	6	0	16	0	—			
専門科目	基礎看護学	基礎看護学特講Ⅰ	1前		2		○			准教授 新井直子 准教授 砂見緩子
		基礎看護学特講Ⅱ	1後		2		○			准教授 新井直子 准教授 砂見緩子
		基礎看護学演習	1通		4			○		准教授 新井直子 准教授 砂見緩子 准教授 伊豆上智子
		基礎看護学特別研究	2通		10			○		准教授 新井直子 准教授 砂見緩子 准教授 伊豆上智子
	成人看護学	成人看護学特講Ⅰ	1前		2		○			教授 南川雅子 教授 林さとみ
		成人看護学特講Ⅱ	1後		2		○			教授 南川雅子 教授 林さとみ
		成人看護学演習	1通		4			○		教授 南川雅子 教授 林さとみ 准教授 古屋洋子
		成人看護学特別研究	2通		10			○		教授 南川雅子 教授 林さとみ 准教授 古屋洋子
	ヘルプス・ロダクティブ看護学	母性看護学特講Ⅰ	1前		2		○			教授 梶原祥子
		母性看護学特講Ⅱ	1後		2		○			教授 梶原祥子
		母性看護学演習	1通		4			○		教授 梶原祥子
		母性看護学特別研究	2通		10			○		教授 梶原祥子
	小児看護学	小児看護学特講Ⅰ	1前		2		○			教授 石舘美弥子
		小児看護学特講Ⅱ	1後		2		○			教授 石舘美弥子
		小児看護学演習	1通		4			○		教授 石舘美弥子 准教授 三木祐子
		小児看護学特別研究	2通		10			○		教授 石舘美弥子 准教授 三木祐子
	精神看護学	精神看護学特講Ⅰ	1前		2		○			教授 松澤和正
		精神看護学特講Ⅱ	1後		2		○			教授 松澤和正
		精神看護学演習	1通		4			○		教授 松澤和正
		精神看護学特別研究	2通		10			○		教授 松澤和正
	地域・公衆衛生看護学	地域・公衆衛生看護学特講Ⅰ	1前		2		○			教授 山崎恭子
		地域・公衆衛生看護学特講Ⅱ	1後		2		○			教授 山崎恭子
		地域・公衆衛生看護学演習	1通		4			○		教授 山崎恭子 准教授 遠藤寛子
		地域・公衆衛生看護学特別研究	2通		10			○		教授 山崎恭子 准教授 遠藤寛子

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				授業形態			担当教員
			必修	選択必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	高齢者看護学	高齢者看護学特講Ⅰ	1前	2			○			教授 上野公子
		高齢者看護学特講Ⅱ	1後	2			○			教授 上野公子
		高齢者看護学演習	1通	4				○		教授 上野公子 講師 黒白恵子
		高齢者看護学特別研究	2通	10				○		教授 上野公子 講師 黒白恵子
	がん看護学	がん看護学特講Ⅰ	1前		2		○			教授 南川雅子
		がん看護学特講Ⅱ	1前		2		○			教授 南川雅子
		がん看護学特講Ⅲ	1前		2		○			教授 南川雅子
		がん看護学演習Ⅰ	1又は2通		2			○		教授 南川雅子
		がん看護学演習Ⅱ	1又は2通		2			○		教授 南川雅子
		がん看護学演習Ⅲ	1又は2通		2			○		教授 南川雅子
		がん看護学演習Ⅳ	1又は2通		2			○		教授 南川雅子
		がん看護学演習Ⅴ	1又は2通		2			○		教授 南川雅子
		がん看護学実習Ⅰ	2前		5				○	教授 南川雅子
		がん看護学実習Ⅱ	2通		2				○	教授 南川雅子
		がん看護学実習Ⅲ	2通		3				○	教授 南川雅子
		小計(39科目)	—	0	126	26	0	—		
教養科目	国際感染症・危機管理学特論	1又は2				1	○			教授 鈴木和男
	特別講義(疫学)	1又は2				1	○			Murray Mittleman
	特別講義(生物統計学)	1又は2				1	○			Garrett Fitzmaurice
	特別講義(行動科学)	1又は2				1	○			Ichiro Kawachi
	特別講義(保健医療政策学)	1又は2				1	○			Alastair Gray
	特別講義(産業環境保健学)	1又は2				1	○			Rose Goldman
	小計(6科目)	—	0	0	0	6				
合計(56科目)		—	6	126	42	6	—			
修了要件及び履修方法 共通科目から必修6単位および選択4単位以上を修得し、専門科目の主分野から特講4単位、演習4単位、特別研究10単位、主分野以外の特講科目またはがん看護学(特講・演習・実習)から2単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。 なお、教員が指導上必要と判断した場合は、医療技術学部看護学科講義の聴講を指示することがある。										

看護学専攻【博士後期課程】

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員			
				必修	必修 選択	自由	講義	演習	実験・ 実習				
専門科目	基礎看護学	基礎看護学特論Ⅰ	1前		2		○			准教授 准教授	新井直子 伊豆上智子	准教授 准教授	砂見緩子
		基礎看護学特論Ⅱ	1後		2		○			准教授 准教授	新井直子 伊豆上智子	准教授 准教授	砂見緩子
		基礎看護学特殊研究	2～3通		10			○		准教授 准教授	新井直子 伊豆上智子	准教授 准教授	砂見緩子
	成人看護学	成人看護学特論Ⅰ	1前		2		○			教授 准教授	南川雅子 古屋洋子	教授 教授	林さとみ
		成人看護学特論Ⅱ	1後		2		○			教授 准教授	南川雅子 古屋洋子	教授 教授	林さとみ
		成人看護学特殊研究	2～3通		10			○		教授 准教授	南川雅子 古屋洋子	教授 教授	林さとみ
	ス・テ・ィ・ン・グ・ラ・イ・フ・ヘ・ル・ス看護学ライツ看	母性看護学特論Ⅰ	1前		2		○			教授	梶原祥子		
		母性看護学特論Ⅱ	1後		2		○			教授	梶原祥子		
		母性看護学特殊研究	2～3通		10			○		教授	梶原祥子		
	小児看護学	小児看護学特論Ⅰ	1前		2		○			教授	石舘美弥子		
		小児看護学特論Ⅱ	1後		2		○			教授	石舘美弥子	准教授	三木祐子
		小児看護学特殊研究	2～3通		10			○		教授	石舘美弥子	准教授	三木祐子
	精神看護学	精神看護学特論Ⅰ	1前		2		○			教授	松澤和正		
		精神看護学特論Ⅱ	1後		2		○			教授	松澤和正		
		精神看護学特殊研究	2～3通		10			○		教授	松澤和正		
	地域・公衆衛生看護学	地域・公衆衛生看護学特論Ⅰ	1前		2		○			教授	山崎恭子		
		地域・公衆衛生看護学特論Ⅱ	1後		2		○			教授	山崎恭子	准教授	遠藤寛子
		地域・公衆衛生看護学特殊研究	2～3通		10			○		教授	山崎恭子	准教授	遠藤寛子
	高齢者看護学	高齢者看護学特論Ⅰ	1前		2		○			教授	上野公子		
		高齢者看護学特論Ⅱ	1後		2		○			教授	上野公子		
		高齢者看護学特殊研究	2～3通		10			○		教授	上野公子		
	小計（21科目）	—	0	98	0								
教養科目	国際感染症・危機管理学特論	1・2・3のいずれか			1	○			教授	鈴木和男			
	特別講義（疫学）	1・2・3のいずれか			1	○				Murray Mittleman			
	特別講義（生物統計学）	1・2・3のいずれか			1	○				Garrett Fitzmaurice			
	特別講義（行動科学）	1・2・3のいずれか			1	○				Ichiro Kawachi			
	特別講義（保健医療政策学）	1・2・3のいずれか			1	○				Alastair Gray			
	特別講義（産業環境保健学）	1・2・3のいずれか			1	○				Rose Goldman			
	小計(6科目)	—			6								
合計（27科目）		—	0	98	6	—							

修了要件及び履修方法

専門科目の主分野から特論4単位および特殊研究10単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること。

なお、教員が指導上必要と判断した場合は、医療技術学部看護学科あるいは、医療技術学研究科看護学専攻博士前期課程講義の聴講を指示することがある。

(3)2020年度 カリキュラムマップ

看護学専攻【博士前期課程】

	DP1 看護の専門職として主体的に学び、倫理的な判断・行動ができる。	DP2 複雑化・高度化する社会環境・医療の中で、多様化するニーズを把握し、看護上の課題を述べることができる。	DP3 実践者、管理者、研究者、教育者として必要な、より専門的な知識・技術を説明できる。	DP4 看護学や看護実践における課題を選択し、研究を行うことができる。
2年		◆がん看護学演習Ⅰ ◆がん看護学演習Ⅱ ◆がん看護学演習Ⅲ ◆がん看護学演習Ⅳ ◆がん看護学演習Ⅴ	がん看護学実習Ⅰ がん看護学実習Ⅱ がん看護学実習Ⅲ ◆がん看護学演習Ⅱ ◆がん看護学演習Ⅲ ◆がん看護学演習Ⅳ ◆がん看護学演習Ⅴ	基礎看護学特別研究 成人看護学特別研究 母性看護学特別研究 小児看護学特別研究 精神看護学特別研究 地域・公衆衛生看護学特別研究 高齢者看護学特別研究 がん看護学実習Ⅲ
1年	看護教育論 看護管理論 ●看護倫理	●看護研究 コンサルテーション論 看護政策論 ●保健統計 フィジカルアセスメント 病態生理 臨床薬理学 基礎看護学特講Ⅰ 基礎看護学特講Ⅱ 成人看護学特講Ⅰ 成人看護学特講Ⅱ 母性看護学特講Ⅰ 母性看護学特講Ⅱ 小児看護学特講Ⅰ 小児看護学特講Ⅱ 精神看護学特講Ⅰ 精神看護学特講Ⅱ 地域・公衆衛生看護学特講Ⅰ 地域・公衆衛生看護学特講Ⅱ 高齢者看護学特講Ⅰ 高齢者看護学特講Ⅱ がん看護学特講Ⅰ がん看護学特講Ⅱ がん看護学特講Ⅲ ◆がん看護学演習Ⅰ ◆がん看護学演習Ⅱ ◆がん看護学演習Ⅲ ◆がん看護学演習Ⅳ ◆がん看護学演習Ⅴ	看護教育論 看護管理論 看護理論 ●看護研究 コンサルテーション論 基礎看護学演習 成人看護学演習 母性看護学演習 小児看護学演習 精神看護学演習 地域・公衆衛生看護学演習 高齢者看護学演習 ◆がん看護学演習Ⅱ ◆がん看護学演習Ⅲ ◆がん看護学演習Ⅳ ◆がん看護学演習Ⅴ	●看護研究

●は必修科目、◆は1年または2年で履修

看護学専攻【博士後期課程】

	DP 1 変化する社会環境・医療の中で、適時に多様性をもってニーズを把握し、看護上の課題を述べることができる。	DP 2 実践者、管理者、研究者、教育者として高度な看護学の知識を説明できる。	DP 3 看護学や看護実践に貢献できる独自性のある研究を行うことができる。
3年			基礎看護学特殊研究 成人看護学特殊研究 母性看護学特殊研究 小児看護学特殊研究 精神看護学特殊研究 地域・公衆衛生看護学特殊研究 高齢者看護学特殊研究
2年			基礎看護学特殊研究 成人看護学特殊研究 母性看護学特殊研究 小児看護学特殊研究 精神看護学特殊研究 地域・公衆衛生看護学特殊研究 高齢者看護学特殊研究
1年	基礎看護学特論Ⅰ 成人看護学特論Ⅰ 母性看護学特論Ⅰ 小児看護学特論Ⅰ 精神看護学特論Ⅰ 地域・公衆衛生看護学特論Ⅰ 高齢者看護学特論Ⅰ	基礎看護学特論Ⅱ 成人看護学特論Ⅱ 母性看護学特論Ⅱ 小児看護学特論Ⅱ 精神看護学特論Ⅱ 地域・公衆衛生看護学特論Ⅱ 高齢者看護学特論Ⅱ	

(4)指導教員一覧

職名	氏名	研究内容
教授	上 野 公 子	在宅および施設で生活している高齢者の健康に関する研究
教授	南 川 雅 子	がん患者のリハビリテーションを促進する援助の開発 せん妄状態にある終末期がん患者・家族の看護援助
教授	松 澤 和 正	精神科領域の臨床看護研究一般（特に「研究的臨床実践」に関する研究等）、精神看護の臨床民族誌的研究、看護思想史に関する研究
教授	梶 原 祥 子	女性のライフサイクルにおける健康支援に関する研究 妊娠期、分娩期、育児期にある女性の健康支援に関する研究
教授	山 崎 恭 子	働く人々を対象に就労の継続に焦点をあてた地域・職域におけるサポートに関する研究
教授	林 さ と み	循環器疾患リスクのある個人・集団、循環器疾患患者・家族の、疾患発症・悪化リスクに対する認識と行動変容に係る要因の探究、概念化疾患・身体損傷がもたらす身体的、心理的、社会的、政治的脆弱性と その看護
教授	石 舘 美 弥 子	子どもの受診行動を支援する言語の研究 子どもの傷害予防に関する研究 発達障がい児とプレパレーションに関する研究
准教授	新 井 直 子	創傷（特に褥瘡）の発生・治癒プロセスと創面評価に関する研究
准教授	砂 見 緩 子	看護職を対象とした職場へのトランジション、職場適応に関する研究
准教授	伊 豆 上 智 子	看護サービス提供にかかわる人的資源や情報の活用に関する研究、 看護学にかかわる情報教育に関する研究、 医療サービスを経験した人々の認識の探究に関する研究
准教授	遠 藤 寛 子	高齢者に主眼を置いた健康の心理・社会的要因に関する研究
准教授	古 屋 洋 子	周術期がん患者の栄養管理、療養生活支援に関する研究
准教授	三 木 祐 子	母子保健学や小児看護学に関する研究 発達障害児に関する研究
講師	黒 白 恵 子	高齢者のアクティビティケアに関する研究

(1) 教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

*教育目的

診療放射線学専攻は、医療技術学研究科の目的に則り、診療放射線学の高度な知識、先進医療技術を有し、病態の診断、治療に携わることができる実践者、管理者、研究者、教育者の育成を目的とする。

*ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

診療放射線学専攻は、豊かな学識を基盤に、より高度な医療技術を習得し、診療放射線学領域における独創的な学術研究を行える優れた研究者、教育者としての人材の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修め、学位論文審査および試験に合格した者に対して学位を授与する。

博士前期課程 診療放射線コース

1. 専門的医療の実践や研究を行うための基盤となる豊かな学識を習得できる。
2. 診療放射線学領域において、日々進歩する医療機器および医療技術について広く専門的に理解し、より高度な医療技術を習得できる。
3. 診療放射線学のみならず、広く学際領域の学術研究成果を理解、統合することにより、先進的な医療技術の研究開発ができる。

博士前期課程 医学物理士コース

1. 医学物理士に必要な医学物理学および放射線治療に関する専門的知識を習得できる。
2. 医学物理領域において、日々進歩する医療技術について広く専門的に理解し、より高度な医療技術を習得できる。
3. 放射線治療技術に関連する理論と方法論について、先進的な医療技術の研究開発ができる。

博士後期課程 診療放射線コース

1. 診療放射線学分野における理論と実践的知見を高め、より高度な医療、および先進的な研究を推進できる。
2. 理論の妥当性の科学的検証、診療放射線学に要求される根拠に基づいた、医療技術の実践と教育研究活動を行うことにより新たな医療技術の発展に参画できる。
3. 医療、研究、教育、行政などの関連機関において、社会の変革に対応できる高度専門医療技術職としてのリーダーシップを有する。

博士後期課程 医学物理士コース

1. 医学物理学および放射線治療学分野における理論と実践的知見を高め、より高度な医療、および先進的な研究を推進できる。
2. 放射線治療分野に要求される根拠に基づいた、医療技術の実践と教育研究活動を行うことにより新たな医療技術の発展に参画できる。
3. 医療、研究、教育、行政などの関連機関において、社会の変革に対応できる高度専門医療技術職としてのリーダーシップを有する。

＊カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

学位授与に要求される能力を修得するために、診療放射線学専攻は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

博士前期課程 診療放射線コース

1. 共通科目では、研究を实践する上で基礎となる原著論文の読解や情報を的確に分析する能力を養うため、「科学研究・論文技法学」、「放射線科学特論」、「医用画像基礎読影学」を必修科目として配置する。さらに、国際化への対応を目的とし、「科学英語特論」を必修科目として配置する。
2. 専門科目では、それぞれの専門分野に対応して特化した知識を深めるために、「診療画像技術学特論」、「救急撮影技術学特論」、「環境放射線科学Ⅰ」等の選択科目を配置する。
3. 専門実習科目では、医師のもとで読影の基礎を習得し、また高度専門医療施設等の臨床実習を通して先進医療技術を習得し、診療放射線学の医学応用について柔軟な適応能力と実践能力を養うため、「診療画像技術学臨床実習」、「核医学検査技術学臨床実習」、「放射線治療技術学臨床実習」を選択科目として、「先端医療施設臨床実習」を自由科目として配置する。
4. 修士論文の作成など教育・研究および発表能力の開発に必要な研究プログラムを行うため、「診療放射線学特別研究」を配置する。

博士前期課程 医学物理士コース

1. 共通科目では、研究を实践する上で基礎となる原著論文の読解や情報を的確に分析する能力を養うため、「科学研究・論文技法学」、「放射線科学特論」、「医用画像基礎読影学」を必修科目として配置する。さらに、国際化への対応を目的とし、「科学英語特論」を必修科目として配置する。
2. 専門科目では、医学物理士に対応して特化した知識を深めるために、「統計科学」、「力学特論」、「量子力学特論」、「放射線物理学特論」等の選択科目を配置する。
3. 専門実習科目では、医師のもとで読影の基礎を習得し、また高度専門医療施設等の臨床実習を通して先進医療技術を習得し、柔軟な適応能力と実践能力を養うため、「診療画像技術学臨床実習」、「核医学検査技術学臨床実習」、「放射線治療技術学臨床実習」を選択科目として、「先端医療施設臨床実習」を自由科目として配置する。
4. 修士論文の作成など教育・研究および発表能力の開発に必要な研究プログラムを行うため、「医学物理特別研究」を配置する。

博士後期課程 診療放射線コース

1. 数多くの臨床画像に触れることにより、更に高度な読影能力を養うため、「医用画像読影学」を必修科目として配置する。
2. 専門職として臨床に即応できるため、「診療画像技術学臨床実習」、「放射線治療学臨床実習Ⅰ」を選択科目として、「先端医療施設臨床実習」を自由科目として配置する。
3. 研究論文の作成を通して、学術交流、教育・研究活動に貢献できる能力や先進的な医療技術を開発できる能力を養うため、「診療放射線学特殊研究」を必修科目として配置する。

博士後期課程 医学物理士コース

1. 数多くの臨床画像に触れることにより、更に高度な読影能力を養うため、「医用画像読影学」を必修科目として配置する。
2. 医学物理士として臨床に即応できるため、「放射線治療学臨床実習Ⅰ」「放射線治療学臨床実習Ⅱ」を選択科目として、「先端医療施設臨床実習」を自由科目として配置する。
3. 研究論文の作成を通して、学術交流、教育・研究活動に貢献できる能力や先進的な医療技術を開発できる能力を養うため、「医学物理特殊研究」を必修科目として配置する。

(2) 授業科目一覧

診療放射線学専攻【博士前期課程】 診療放射線コース 2020年度以降入学生 (20MT～)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
共通科目	科学研究・論文技法学	1前	2			○			教授 大谷浩樹 教授 鈴木崇彦 教授 今井豊 准教授 大松将彦 講師 林達也 教授 小林毅範 教授 富沢比呂之 教授 古徳純一 講師 横塚記代
	放射線科学特論	1前	2			○			教授 富沢比呂之 教授 大谷浩樹 教授 鈴木崇彦 講師 横塚記代
	科学英語特論	1前	2			○			教授 岡本孝英 教授 小林毅範 講師 林達也 教授 富沢比呂之 准教授 菱木清 講師 (非) 川瀬美保
	医用画像基礎読影学	1後	2			○			教授 古井滋 准教授 太田樹 教授 岡本孝英 講師 横塚記代
	医用画像情報学特論 I	1前		2		○			教授 岡本孝英
	医用機器品質管理学	1後		2		○			教授 大谷浩樹 教授 岡本孝英
	放射線技術学特論 (治療)	2前		2		○			教授 大谷浩樹 教授 鈴木崇彦 准教授 菱木清 教授 小林毅範 教授 古徳純一 講師 (非) 新井範一
	放射線技術学特論 (核医学 I)	2前		2		○			教授 小林毅範 教授 古徳純一 講師 (非) 近松孝 教授 富沢比呂之 講師 横塚記代
	放射線技術学特論 (核医学 II)	2後		2		○			教授 小林毅範 教授 古徳純一 講師 (非) 近松孝 教授 富沢比呂之 講師 横塚記代
	小計 (9科目)	—	8	10	0	—			
専門科目	統計科学	2前		1		○			教授 古徳純一
	物理数学	1後		1		○			教授 古徳純一
	数値計算	1前		2		○			教授 古徳純一
	力学特論	1前		2		○			教授 小林毅範
	量子力学特論	1後		2		○			教授 小林毅範 講師 (非) 芳賀昭弘
	熱力学・統計力学	1後		2		○			教授 富沢比呂之
	放射線物理学特論	1後		2		○			教授 小林毅範 講師 (非) 取越正巳
	電磁気学	1前		2		○			教授 小林毅範
	医用画像情報学特論 II	2前		2		○			教授 岡本孝英 講師 木村千里 講師 林達也 准教授 大松将彦 講師 横塚記代 講師 (非) 内山喜代志
	医用画像情報工学特論	1後		2		○			教授 小林毅範
	核化学特論	1後		2		○			教授 富沢比呂之 講師 横塚記代
	医用画像処理学特論	1後		2		○			教授 岡本孝英 講師 林達也
	環境放射線科学 I	1後		2		○			教授 鈴木崇彦 教授 富沢比呂之 教授 岡本孝英
	診療画像技術学特論	2前		2		○			教授 岡本孝英 講師 木村千里 講師 (非) 山岸正文 准教授 大松将彦 講師 林達也
	救急撮影技術学特論	2前		2		○			教授 岡本孝英 准教授 菱木清 講師 (非) 南敏広 教授 古井滋 教授 坂本哲也
	診療放射線学特別研究	1後～2通	8				○		教授 岡本孝英 教授 富沢比呂之 教授 大谷浩樹 准教授 高橋信喜 准教授 太田樹 講師 横塚記代 教授 鈴木崇彦 教授 今井豊 准教授 菱木清 准教授 大松将彦 講師 木村千里 講師 林達也
	小計 (16科目)	—	8	28	0	—			

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門 実習科目	臨床 実習	診療画像技術学臨床実習	1通		2				○	教授 岡本孝英 准教授 大松将彦	准教授 菱木清 講師 林達也
		核医学検査技術学臨床実習	1通		2				○	教授 岡本孝英	講師 横塚記代
		放射線治療技術学臨床実習	1通		2				○	教授 岡本孝英 准教授 菱木清	教授 大谷浩樹
		小計（3科目）	—	0	6	0	—				
	先端医療 臨床実習	先端医療施設臨床実習	2前			8			○	教授 岡本孝英 教授 古徳純一	教授 大谷浩樹 准教授 大松将彦
		小計（1科目）	—	0	0	8	—				
教養 科目		国際感染症・危機管理学特論	1又は2			1	○			教授 鈴木和男	
		特別講義（疫学）	1又は2			1	○			Murray Mittleman	
		特別講義（生物統計学）	1又は2			1	○			Garrett Fitzmaurice	
		特別講義（行動科学）	1又は2			1	○			Ichiro Kawachi	
		特別講義（保健医療政策学）	1又は2			1	○			Alastair Gray	
		特別講義（産業環境保健学）	1又は2			1	○			Rose Goldman	
		小計（6科目）		0	0	6	—				
		合計（26科目）	—	16	44	14	—				
修了要件及び履修方法											
診療放射線学特別研究を含む必修科目16単位並びに選択科目14単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。 なお、教員が指導上必要と判断した場合は、医療技術学部診療放射線学科講義の聴講を指示することがある。											

診療放射線学専攻【博士前期課程】 診療放射線コース 2018年度～2019年度入学生（18MT～19MT）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・ 実習		
共通科目	科学研究・論文技法学	1前	2			○			教授 大谷浩樹 教授 鈴木崇彦 教授 今井豊 准教授 大松将彦 講師 横塚記代	教授 小林毅範 教授 富沢比呂之 教授 古徳純一 講師 藤原政雄 講師 林達也
	放射線科学特論	1前	2			○			教授 富沢比呂之 教授 大谷浩樹	教授 鈴木崇彦 講師 横塚記代
	科学英語特論	1前	2			○			教授 岡本孝英 教授 小林毅範 講師 林達也	教授 富沢比呂之 准教授 菱木清 講師(非) 川瀬美保
	医用画像基礎読影学	1後	2			○			教授 古井滋 准教授 太田樹	教授 岡本孝英 講師 横塚記代
	医用画像情報学特論Ⅰ	1前		2		○			教授 岡本孝英	
	医用機器品質管理学	1後		2		○			教授 大谷浩樹	教授 岡本孝英
	放射線技術学特論（治療）	2前		2		○			教授 大谷浩樹 教授 鈴木崇彦 准教授 菱木清	教授 小林毅範 教授 古徳純一 講師(非) 新井範一
	放射線技術学特論（核医学Ⅰ）	2前		2		○			教授 小林毅範 教授 古徳純一 講師(非) 近松孝	教授 富沢比呂之 講師 横塚記代
	放射線技術学特論（核医学Ⅱ）	2後		2		○			教授 小林毅範 教授 古徳純一 講師(非) 近松孝	教授 富沢比呂之 講師 横塚記代
	小計（9科目）	—	8	10	0	—				
専門科目	統計科学	2前		2		○			教授 古徳純一	
	物理数学	1後		2		○			教授 古徳純一	
	数値計算	1前		2		○			教授 古徳純一	
	力学特論	1前		2		○			教授 小林毅範	
	量子力学特論	1後		2		○			教授 小林毅範	講師(非) 芳賀昭弘
	熱力学・統計力学	1後		2		○			教授 富沢比呂之	
	放射線物理学特論	1後		2		○			教授 小林毅範	講師(非) 取越正巳
	電磁気学	1前		2		○			教授 小林毅範	
	医用画像情報工学特論	1後		2		○			教授 小林毅範	
	核化学特論	1後		2		○			教授 富沢比呂之	講師 横塚記代
	医用画像処理学特論	1後		2		○			教授 岡本孝英	講師 林達也
	環境放射線科学Ⅰ	1後		2		○			教授 鈴木崇彦 教授 富沢比呂之	教授 岡本孝英
	診療画像技術学特論	2前		2		○			教授 岡本孝英 講師 木村千里 講師(非) 山岸正文	准教授 大松将彦 講師 林達也
	救急撮影技術学特論	2前		2		○			教授 岡本孝英 准教授 菱木清 講師(非) 南敏広	教授 古井滋 教授 坂本哲也
	医用画像情報学特論Ⅱ	2前		2		○			教授 岡本孝英 講師 木村千里 講師 林達也	准教授 大松将彦 講師 横塚記代 講師(非) 内山喜代志
	診療放射線学特別研究	1後～2通	8				○		教授 岡本孝英 教授 富沢比呂之 教授 大谷浩樹 准教授 高橋信喜 准教授 太田樹 講師 横塚記代	教授 鈴木崇彦 教授 今井豊 教授 菱木清 准教授 大松将彦 講師 木村千里 講師 林達也
	小計（16科目）	—	8	30	0	—				

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門実習科目	臨床実習	診療画像技術学臨床実習	1通		2				○	教授 岡本孝英 准教授 大松将彦	准教授 菱木清 講師 林達也
		核医学検査技術学臨床実習	1通		2				○	教授 岡本孝英 講師 横塚記代	講師 藤原政雄
		放射線治療技術学臨床実習	1通		2				○	教授 岡本孝英 准教授 菱木清	教授 大谷浩樹
		小計（3科目）	—	0	6	0	—				
	先端医療臨床実習	先端医療施設臨床実習	2前			8			○	教授 岡本孝英 教授 古徳純一	教授 大谷浩樹 准教授 大松将彦
		小計（1科目）	—	0	0	8	—				
教養科目		国際感染症・危機管理学特論	1又は2			1	○			教授 鈴木和男	
		特別講義（疫学）	1又は2			1	○			Murray Mittleman	
		特別講義（生物統計学）	1又は2			1	○			Garrett Fitzmaurice	
		特別講義（行動科学）	1又は2			1	○			Ichiro Kawachi	
		特別講義（保健医療政策学）	1又は2			1	○			Alastair Gray	
		特別講義（産業環境保健学）	1又は2			1	○			Rose Goldman	
		小計（6科目）		0	0	6	—				
合計（26科目）			—	16	46	14	—				
修了要件及び履修方法											
診療放射線学特別研究を含む必修科目16単位並びに選択科目14単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。 なお、教員が指導上必要と判断した場合は、医療技術学部診療放射線学科講義の聴講を指示することがある。											

診療放射線学専攻【博士前期課程】 医学物理士コース 2020年度以降入学生（20MT～）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・		
共通科目	科学研究・論文技法学	1前	2			○			教授 大谷浩樹 教授 鈴木崇彦 教授 今井豊 准教授 大松将彦 講師 林達也	教授 小林毅範 教授 富沢比呂之 教授 古徳純一 講師 横塚記代
	放射線科学特論	1前	2			○			教授 富沢比呂之 教授 大谷浩樹	教授 鈴木崇彦 講師 横塚記代
	科学英語特論	1前	2			○			教授 岡本孝英 教授 小林毅範 講師 林達也	教授 富沢比呂之 准教授 菱木清 講師(非) 川瀬美保
	医用画像基礎読影学	1後	2			○			教授 古井滋 准教授 太田樹	教授 岡本孝英 講師 横塚記代
	医用画像情報学特論Ⅰ	1前		2		○			教授 岡本孝英	
	医用機器品質管理学	1後		2		○			教授 大谷浩樹	教授 岡本孝英
	放射線技術学特論（治療）	2前		2		○			教授 大谷浩樹 教授 鈴木崇彦 准教授 菱木清	教授 小林毅範 教授 古徳純一 講師(非) 新井範一
	放射線技術学特論（核医学Ⅰ）	2前		2		○			教授 小林毅範 教授 古徳純一 講師(非) 近松孝	教授 富沢比呂之 講師 横塚記代
	放射線技術学特論（核医学Ⅱ）	2後		2		○			教授 小林毅範 教授 古徳純一 講師(非) 近松孝	教授 富沢比呂之 講師 横塚記代
	小計（9科目）	—	8	10	0	—				
専門科目	統計科学	2前		1		○			教授 古徳純一	
	物理数学	1後		1		○			教授 古徳純一	
	数値計算	1前		2		○			教授 古徳純一	
	力学特論	1前		2		○			教授 小林毅範	
	量子力学特論	1後		2		○			教授 小林毅範	講師(非) 芳賀昭弘
	熱力学・統計力学	1後		2		○			教授 富沢比呂之	
	放射線物理学特論	1後		2		○			教授 小林毅範	講師(非) 取越正巳
	電磁気学	1前		2		○			教授 小林毅範	
	医用画像情報学特論Ⅱ	2前		2		○			教授 岡本孝英 講師 木村千里 講師 林達也	准教授 大松将彦 講師 横塚記代 講師(非) 内山喜代志
	解剖学特論	1前		1		○			教授 古井滋	准教授 太田樹
	生理学特論	1後		1		○			教授 古井滋	准教授 太田樹
	放射線腫瘍学	1後		2		○			教授 古井滋 教授 大谷浩樹	教授 鈴木崇彦 准教授 太田樹
	放射線計測学特論	1後		2		○			教授 大谷浩樹	
	原子核物理学	1後		2		○			教授 小林毅範	
	医学物理特別研究	1後～2通	8				○		教授 小林毅範 教授 古徳純一	教授 大谷浩樹
小計（15科目）	—	8	24	0	—					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門実習科目	臨床実習								
	診療画像技術学臨床実習	1通		2				○	教授 岡本孝英 准教授 大松将彦 准教授 菱木清 講師 林達也
	核医学検査技術学臨床実習	1通		2				○	教授 岡本孝英 講師 横塚記代
	放射線治療技術学臨床実習	1通		2				○	教授 岡本孝英 准教授 菱木清 教授 大谷浩樹
	医学物理総合実習	1通		2				○	教授 岡本孝英 教授 大谷浩樹 教授 古徳純一 准教授 菱木清 講師 林達也 講師 横塚記代
	小計（3科目）	—	0	6	0	—			
	先端医療施設臨床実習	2前			8			○	教授 岡本孝英 教授 古徳純一 教授 大谷浩樹 准教授 大松将彦
教養科目	小計（1科目）	—	0	0	8	—			
	国際感染症・危機管理学特論	1又は2			1	○			教授 鈴木和男
	特別講義（疫学）	1又は2			1	○			Murray Mittleman
	特別講義（生物統計学）	1又は2			1	○			Garrett Fitzmaurice
	特別講義（行動科学）	1又は2			1	○			Ichiro Kawachi
	特別講義（保健医療政策学）	1又は2			1	○			Alastair Gray
	特別講義（産業環境保健学）	1又は2			1	○			Rose Goldman
小計（6科目）			0	0	6	—			
合計（26科目）			—	16	40	14	—		

修了要件及び履修方法

医学物理特別研究を含む必修科目16単位並びに選択科目18単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。ただし、医学物理士認定機構が認定する「医学物理教育コース」の修了者と認められるのは、医学物理士認定機構ガイドラインによるカリキュラムの必修80%以上の充足度を満たした場合に限る。

なお、教員が指導上必要と判断した場合は、医療技術学部診療放射線学科講義の聴講を指示することがある。

診療放射線学専攻【博士前期課程】 医学物理士コース 2018年度～2019年度入学生（18MT～19MT）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・	
共通 科目	科学研究・論文技法学	1前	2			○			教授 大谷浩樹 教授 鈴木崇彦 教授 今井豊 准教授 大松将彦 講師 横塚記代 教授 小林毅範 教授 富沢比呂之 教授 古徳純一 講師 藤原政雄 講師 林達也
	放射線科学特論	1前	2			○			教授 富沢比呂之 教授 大谷浩樹 教授 鈴木崇彦 講師 横塚記代
	科学英語特論	1前	2			○			教授 岡本孝英 教授 小林毅範 講師 林達也 教授 富沢比呂之 准教授 菱木清 講師(非) 川瀬美保
	医用画像基礎読影学	1後	2			○			教授 古井滋 准教授 太田樹 教授 岡本孝英 講師 横塚記代
	医用画像情報学特論Ⅰ	1前		2		○			教授 岡本孝英
	医用機器品質管理学	1後		2		○			教授 大谷浩樹 教授 岡本孝英
	放射線技術学特論（治療）	2前		2		○			教授 大谷浩樹 教授 鈴木崇彦 准教授 菱木清 教授 小林毅範 教授 古徳純一 講師(非) 新井範一
	放射線技術学特論（核医学Ⅰ）	2前		2		○			教授 小林毅範 教授 古徳純一 講師(非) 近松孝 教授 富沢比呂之 講師 横塚記代
	放射線技術学特論（核医学Ⅱ）	2後		2		○			教授 小林毅範 教授 古徳純一 講師(非) 近松孝 教授 富沢比呂之 講師 横塚記代
	小計（9科目）	—	8	10	0	—			
専門 科目	統計科学	2前		2		○			教授 古徳純一
	物理数学	1後		2		○			教授 古徳純一
	数値計算	1前		2		○			教授 古徳純一
	力学特論	1前		2		○			教授 小林毅範
	量子力学特論	1後		2		○			教授 小林毅範 講師(非) 芳賀昭弘
	熱力学・統計力学	1後		2		○			教授 富沢比呂之
	放射線物理学特論	1後		2		○			教授 小林毅範 講師(非) 取越正巳
	電磁気学	1前		2		○			教授 小林毅範
	解剖学特論	1前		2		○			教授 古井滋 准教授 太田樹
	生理学特論	1後		2		○			教授 古井滋 准教授 太田樹
	放射線腫瘍学	1後		2		○			教授 古井滋 教授 大谷浩樹 教授 鈴木崇彦 准教授 太田樹
	放射線計測学特論	1後		2		○			教授 大谷浩樹
	医学物理特別研究	1後～2通	8				○		教授 小林毅範 教授 大谷浩樹 教授 古徳純一
	小計（13科目）	—	8	24	0	—			

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・ 実習	
専門 実習科目	臨床 実習	診療画像技術学臨床実習	1通		2				○	教授 岡本孝英 准教授 大松将彦 准教授 菱木清 講師 林達也
		核医学検査技術学臨床実習	1通		2				○	教授 岡本孝英 講師 横塚記代 講師 藤原政雄
		放射線治療技術学臨床実習	1通		2				○	教授 岡本孝英 准教授 菱木清 教授 大谷浩樹
		小計（3科目）	—	0	6	0	—			
	先端医療 臨床実習	先端医療施設臨床実習	2前			8			○	教授 岡本孝英 教授 古徳純一 教授 大谷浩樹 准教授 大松将彦
		小計（1科目）	—	0	0	8	—			
教養 科目		国際感染症・危機管理学特論	1又は2			1	○			教授 鈴木和男
		特別講義（疫学）	1又は2			1	○			Murray Mittleman
		特別講義（生物統計学）	1又は2			1	○			Garrett Fitzmaurice
		特別講義（行動科学）	1又は2			1	○			Ichiro Kawachi
		特別講義（保健医療政策学）	1又は2			1	○			Alastair Gray
		特別講義（産業環境保健学）	1又は2			1	○			Rose Goldman
		小計（6科目）		0	0	6	—			
合計（26科目）			—	16	40	14	—			
修了要件及び履修方法										
医学物理特別研究を含む必修科目16単位並びに選択科目18単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。ただし、医学物理士認定機構が認定する「医学物理教育コース」の修了者と認められるのは、医学物理士認定機構ガイドラインによるカリキュラムの必修80%以上の充足度を満たした場合に限る。 なお、教員が指導上必要と判断した場合は、医療技術学部診療放射線学科講義の聴講を指示することがある。										

診療放射線学専攻【博士後期課程】 診療放射線コース 2018年度以降入学生（18DT～）

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・ 実習		
専門 科目		医療管理・経営学	1前		2		○			教授 岡本孝英	
		医用画像読影学	1後	2			○			教授 古井滋 准教授 太田樹	教授 岡本孝英
		環境放射線科学Ⅱ	2後		2		○			教授 鈴木崇彦 教授 富沢比呂之	教授 岡本孝英 准教授 高橋信喜
		小計（3科目）	—	2	4	0	—				
		診療放射線学特殊研究	1～3通	12				○		教授 岡本孝英 教授 富沢比呂之 准教授 菱木清 准教授 大松将彦 講師 横塚記代	教授 鈴木崇彦 教授 今井豊 准教授 高橋信喜 講師 木村千里 講師 林達也
		小計（1科目）	—	12	0	0	—				
専門 実習 科目	臨床 実習	診療画像技術学臨床実習	1・2・3のいずれ か通年		4				○	教授 岡本孝英 講師 横塚記代	准教授 大松将彦 講師 林達也
		放射線治療学臨床実習Ⅰ	1・2・3のいずれ か通年		4				○	教授 岡本孝英 准教授 菱木清	教授 大谷浩樹
		小計（1科目）	—	0	8	0	—				
	先端 医療 臨床 実習	先端医療施設臨床実習	1～3通			8			○	教授 岡本孝英 教授 古徳純一	教授 大谷浩樹 准教授 菱木清
		小計（1科目）	—	0	0	8	—				
教養 科目		国際感染症・危機管理学特論	1・2・3の いずれか			1	○			教授 鈴木和男	
		特別講義（疫学）	1・2・3の いずれか			1	○			Murray Mittleman	
		特別講義（生物統計学）	1・2・3の いずれか			1	○			Garrett Fitzmaurice	
		特別講義（行動科学）	1・2・3の いずれか			1	○			Ichiro Kawachi	
		特別講義（保健医療政策学）	1・2・3の いずれか			1	○			Alastair Gray	
		特別講義（産業環境保健学）	1・2・3の いずれか			1	○			Rose Goldman	
		小計(6科目)	—	0	0	6					
合計（12科目）		—	14	12	14	—					
修了要件及び履修方法											
診療放射線学特殊研究を含む必修科目14単位並びに選択科目2単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること。											

診療放射線学専攻【博士後期課程】 医学物理士コース 2017年度以降入学生（17DT～）

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目		医療管理・経営学	1前		2		○			教授 岡本孝英	
		医用画像読影学	1後	2			○			教授 古井滋 准教授 太田樹	教授 岡本孝英
		環境放射線科学Ⅱ	2後		2		○			教授 鈴木崇彦 教授 富沢比呂之	教授 岡本孝英 准教授 高橋信喜
		小計（3科目）	—	2	4	0	—				
		医学物理特殊研究	1～3通	12				○		教授 小林毅範 教授 古徳純一	教授 大谷浩樹
		小計（1科目）	—	12	0	0	—				
専門実習科目	臨床実習	放射線治療学臨床実習Ⅰ	1通		4				○	教授 岡本孝英 准教授 菱木清	教授 大谷浩樹
		放射線治療学臨床実習Ⅱ	2～3通		4				○	教授 岡本孝英 准教授 菱木清	教授 大谷浩樹
		小計（2科目）	—	0	8	0	—				
	先端医療臨床実習	先端医療施設臨床実習	1～3通			8			○	教授 岡本孝英 教授 古徳純一	教授 大谷浩樹 准教授 菱木清
		小計（1科目）	—	0	0	8	—				
	教養科目		国際感染症・危機管理学特論	1・2・3のいずれか			1	○			教授 鈴木和男
		特別講義（疫学）	1・2・3のいずれか			1	○			Murray Mittleman	
		特別講義（生物統計学）	1・2・3のいずれか			1	○			Garrett Fitzmaurice	
		特別講義（行動科学）	1・2・3のいずれか			1	○			Ichiro Kawachi	
		特別講義（保健医療政策学）	1・2・3のいずれか			1	○			Alastair Gray	
		特別講義（産業環境保健学）	1・2・3のいずれか			1	○			Rose Goldman	
		小計(6科目)	—	0	0	6					
合計（13科目）		—	14	12	14	—					
修了要件及び履修方法											
医学物理特殊研究を含む必修科目14単位並びに選択科目2単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること。											

(3)2020年度カリキュラムマップ

診療放射線学専攻【博士前期課程 診療放射線コース】

	DP1 専門的医療の実践や研究を行うための基盤となる豊かな学識を習得できる。	DP2 診療放射線学領域において、日々進歩する医療機器および医療技術について広く専門的に理解し、より高度な医療技術を習得できる。	DP3 診療放射線学のみならず、広く学際領域の学術研究成果を理解、統合することにより、先進的な医療技術の研究開発ができる。
2年	統計科学	診療画像技術学特論 放射線技術学特論（治療） 放射線技術学特論（核医学Ⅰ） 放射線技術学特論（核医学Ⅱ） 医用画像情報学特論Ⅱ 救急撮影技術学特論	先端医療施設臨床実習 ●診療放射線学特別研究
1年	●科学研究・論文技法学 ●放射線科学特論 ●医用画像基礎読影学 物理数学 数値計算 力学特論 量子力学特論 熱力学・統計力学 放射線物理学特論 電磁気学 核化学特論	医用画像情報学特論Ⅰ 医用画像情報工学特論 医用画像処理学特論 環境放射線科学Ⅰ 診療画像技術学臨床実習 核医学検査技術学臨床実習 放射線治療技術学臨床実習	医用機器品質管理学 ●科学英語特論 ●診療放射線学特別研究

●は必修科目

診療放射線学専攻【博士前期課程 医学物理士コース】

	DP1 医学物理士に必要な医学物理学および放射線治療に関する専門的知識を習得できる。	DP2 医学物理領域において、日々進歩する医療技術について広く専門的に理解し、より高度な医療技術を習得できる。	DP3 放射線治療技術に関連する理論と方法論について、先進的な医療技術の研究開発ができる。
2年	統計科学	放射線技術学特論（治療） 放射線技術学特論（核医学Ⅰ） 放射線技術学特論（核医学Ⅱ） 医用画像情報学特論Ⅱ	先端医療施設臨床実習 ●医学物理特別研究
1年	●科学研究・論文技法学 ●放射線科学特論 ●医用画像基礎読影学 物理数学 数値計算 力学特論 量子力学特論 熱力学・統計力学 放射線物理学特論 電磁気学 解剖学特論 生理学特論 放射線計測学特論 原子核物理学	医用画像情報学特論Ⅰ 放射線腫瘍学 診療画像技術学臨床実習 核医学検査技術学臨床実習 放射線治療技術学臨床実習 医学物理総合実習	医用機器品質管理学 ●科学英語特論 ●医学物理特別研究

●は必修科目

診療放射線学専攻【博士後期課程 診療放射線コース】

	DP1 診療放射線学分野における理論と実践的知見を高め、より高度な医療、および先進的な研究を推進できる。	DP2 理論の妥当性の科学的検証、診療放射線学に要求される根拠に基づいた、医療技術の実践と教育研究活動を行うことにより新たな医療技術の発展に参画できる。	DP3 医療、研究、教育、行政などの関連機関において、社会の変革に対応できる高度専門医療技術職としてのリーダーシップを有する。
3年		診療画像技術学臨床実習 先端医療施設臨床実習 放射線治療学臨床実習 I	●診療放射線学特殊研究
2年	環境放射線科学 II	診療画像技術学臨床実習 先端医療施設臨床実習 放射線治療学臨床実習 I	●診療放射線学特殊研究
1年	●医用画像読影学	診療画像技術学臨床実習 先端医療施設臨床実習 放射線治療学臨床実習 I	医療管理・経営学 ●診療放射線学特殊研究

●は必修科目

診療放射線学専攻【博士後期課程 医学物理士コース】

	DP1 医学物理学および放射線治療学分野における理論と実践的知見を高め、より高度な医療、および先進的な研究を推進できる。	DP2 放射線治療分野に要求される根拠に基づいた、医療技術の実践と教育研究活動を行うことにより新たな医療技術の発展に参画できる。	DP3 医療、研究、教育、行政などの関連機関において、社会の変革に対応できる高度専門医療技術職としてのリーダーシップを有する。
3年		放射線治療学臨床実習Ⅱ 先端医療施設臨床実習	●医学物理特殊研究
2年	環境放射線科学Ⅱ	放射線治療学臨床実習Ⅱ 先端医療施設臨床実習	●医学物理特殊研究
1年	●医用画像読影学	放射線治療学臨床実習Ⅰ 先端医療施設臨床実習	医療管理・経営学 ●医学物理特殊研究

●は必修科目

(4)医学物理士認定機構ガイドラインカリキュラム対応表

本学のカリキュラム				認定機構講義カリキュラム		
科目名	コース	必修	単位	科目名	必修	最小単位
科学研究・論文技法学	共通	必修	2	—	—	—
放射線科学特論	共通	必修	2	放射線生物学	必修	1
				放射線関連法規および勧告／医療倫理	必修	1
科学英語特論	共通	必修	2	科学英語	選択	1
医用画像基礎読影学	共通	必修	2	放射線診断学	必修	1
医用画像情報学特論Ⅰ	共通	選択	2	放射線診断物理学Ⅰ	必修	1
				医療・画像情報学	必修	1
医用機器品質管理学	共通	選択	2	保健物理学／放射線防護学Ⅰ	必修	1
				保健物理学／放射線防護学Ⅱ	選択	1
放射線技術学特論(治療)	共通	選択	2	放射線治療物理学Ⅰ	必修	1
				放射線治療物理学Ⅱ	選択	1
放射線技術学特論(核医学Ⅰ)	共通	選択	2	核医学物理学Ⅰ	必修	1
				核医学物理学Ⅱ	選択	1
放射線技術学特論(核医学Ⅱ)	共通	選択	2	核医学	必修	1
統計科学	共通	選択	1	統計学	必修	1
物理数学	共通	選択	1	物理数学	選択	1
数値計算	共通	選択	2	—	—	—
力学特論	共通	選択	2	力学	必修	2
量子力学特論	共通	選択	2	量子力学	選択	2
熱力学・統計力学	共通	選択	2	熱力学・統計力学	選択	2
放射線物理学特論	共通	選択	2	放射線物理学	必修	2
電磁気学	共通	選択	2	電磁気学	必修	2
解剖学特論	医物	選択	1	解剖学	必修	1
生理学特論	医物	選択	1	生理学	必修	1
放射線腫瘍学	医物	選択	2	放射線腫瘍学	必修	1
				腫瘍病理学	選択	1
放射線計測学特論	医物	選択	2	放射線計測学	必修	2
原子核物理学	医物	選択	2	原子核物理学	選択	2
医用画像情報学特論Ⅱ	共通	選択	2	放射線診断物理学Ⅱ	選択	1
医学物理特別研究	医物	必修	8	—	—	—
診療画像技術学臨床実習	共通	選択	2	—	—	—
核医学検査技術学臨床実習	共通	選択	2	—	—	—
放射線治療技術学臨床実習	共通	選択	2	—	—	—
医学物理総合実習	医物	選択	2	実習・演習	必修	2
				①保健物理学／放射線防護学		
				②放射線診断物理学		
				③核医学物理学		
				④放射線治療物理学		
				⑤放射線計測学		
				⑥医療・画像情報工学		
先端医療施設臨床実習	共通	自由	8	—	—	—

※診療放射線学専攻博士前期課程(医学物理士コース)は、医学物理士認定機構の「医学物理教育コース」の認定を受けています。

診療放射線学専攻博士前期課程医学物理士コース 履修モデル

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業 形態	履修年次		認定機構カリキュラム	
			必修	選択	自由		1年	2年		
共通 科目	科学研究・論文技法学	1前	2			講義	○		—	—
	放射線科学特論	1前	2			講義	○		放射線生物学	必修
									放射線関連法規および勧告／医療倫理	必修
	科学英語特論	1前	2			講義	○		科学英語	選択
	医用画像基礎読影学	1後	2			講義	○		放射線診断学	必修
	医用画像情報学特論Ⅰ	1前		2		講義	○		放射線診断物理学Ⅰ	必修
									医療・画像情報学	必修
	医用機器品質管理学	1後		2		講義	○		保健物理学／放射線防護学Ⅰ	必修
									保健物理学／放射線防護学Ⅱ	選択
	放射線技術学特論（治療）	2前		2		講義		○	放射線治療物理学Ⅰ	必修
									放射線治療物理学Ⅱ	選択
専門 科目	放射線技術学特論（核医学Ⅰ）	2前		2		講義		○	核医学物理学Ⅰ	必修
									核医学物理学Ⅱ	選択
	放射線技術学特論（核医学Ⅱ）	2後		2		講義		○	核医学	必修
	統計科学	2前		1		講義		○	統計学	必修
	物理数学	1後		1		講義	○		物理数学	選択
	数値計算	1前		2		講義	○		—	—
	力学特論	1前		2		講義	○		力学	必修
	量子力学特論	1後		2		講義		○	量子力学	選択
	熱力学・統計力学	1後		2		講義			熱力学・統計力学	選択
	放射線物理学特論	1後		2		講義	○		放射線物理学	必修
	電磁気学	1前		2		講義		○	電磁気学	必修
	解剖学特論	1前		1		講義	○		解剖学	必修
	生理学特論	1後		1		講義	○		生理学	必修
	放射線腫瘍学	1後		2		講義	○		放射線腫瘍学	必修
									腫瘍病理学	選択
	放射線計測学特論	1後		2		講義		○	放射線計測学	必修
	原子核物理学	1後		2		講義			原子核物理学	選択
	医用画像情報学特論Ⅱ	2前		2		講義			放射線診断物理学Ⅱ	選択
	医学物理特別研究	1後～2通	8			演習	○	○	—	—
専門 実習 科目	診療画像技術学臨床実習	1通		2		実験実習			—	—
	核医学検査技術学臨床実習	1通		2		実験実習			—	—
	放射線治療技術学臨床実習	1通		2		実験実習			—	—
	医学物理総合実習	1通		2		実験実習	○		実習・演習	必修
	先端医療施設臨床実習	2前			8	実験実習			—	—
教養 科目	国際感染症・危機管理学特論	1又は2			1	講義			—	—
	特別講義（免疫）	1又は2			1	講義			—	—
	特別講義（生物統計学）	1又は2			1	講義			—	—
	特別講義（行動科学）	1又は2			1	講義			—	—
	特別講義（保健医療政策学）	1又は2			1	講義			—	—
	特別講義（産業環境保健学）	1又は2			1	講義			—	—

医療系学部出身者は理工系科目を、理工系学部出身者は医療系科目をそれぞれ重点的に履修することで
医学物理士認定機構ガイドラインにおける講義カリキュラム必須科目の80%の充足度を満たすこと。

(5)指導教員一覧

職名	氏名	研究内容
教授	岡 本 孝 英	医用X線画像のノイズ除去と特徴抽出に関する研究
教授	古 井 滋	放射線診断・IVRに関する研究
教授	小 林 毅 範	大規模数値計算を基にした次世代3次元線量計の開発研究
教授	鈴 木 崇 彦	分子・細胞レベルでの放射線影響の解析と放射線防護の研究
教授	富 沢 比 呂 之	放射性標識化合物の分離、分析法の研究
教授	今 井 豊	超音波を用いた軟組織性状診断の可能性の検討
教授	大 谷 浩 樹	医用放射線の高精度線量計測および被ばく防護に関する研究
教授	古 徳 純 一	人工知能とコンピュータビジョンによる次世代放射線治療支援システムの開発
准教授	菱 木 清	診療画像技術学分野に関する研究 放射線治療分野に関する研究
准教授	高 橋 信 喜	自然放射線（環境放射線）の調査
准教授	大 松 将 彦	デジタル医用画像形成と情報通信技術応用に関する研究
准教授	太 田 樹	放射線の臨床応用に関する研究
講師	木 村 千 里	骨・関節単純X線撮影および画像に関する研究
講師	横 塚 記 代	Tc-99m標識放射性医薬品の品質管理に関する検討 認知症診断における核医学検査の画像評価についての研究
講師	林 達 也	MRIを用いた病変の定量的解析方法の開発

（１）教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

＊教育目的

臨床検査学専攻は、医療技術学研究科の目的に則り、臨床検査をはじめ衛生、食品業務に関わる検査医学の知識、技術、研究、教育に関して高度な専門性を備え、社会で指導的役割を果たせる実践者、管理者、研究者、教育者の育成を目的とする。

＊ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

臨床検査学専攻は臨床検査をはじめ衛生、食品業務に関わる検査医学の技術、知識、教育に関して高度な専門性を備え、社会で指導的役割を果たせる実践者、管理者、教育研究者の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修め、学位論文審査および試験に合格した者に対して学位を授与する。

博士前期課程

1. 臨床検査の基礎となる自然科学分野の専門的知識を有し、教育・研究を推進する能力がある。
2. 臨床検査で行われる検体検査、微生物検査、生理検査、病理組織検査についての学術研究成果を理解、統合することによって、医療技術の実践・教育・研究を行うことができる。
3. 臨床検査学と医学の学際的分野において教育・研究を行うことができる。

博士後期課程

1. 臨床検査の基礎となる自然科学分野の専門的知識を有し、より高度で先進的な研究を推進する能力を有する。
2. 臨床検査で行われる検体検査、微生物検査、生理検査、病理組織検査についての高度な学術研究成果を理解、統合することによって、先進的な医療技術の研究開発を指導できる。
3. 臨床検査学と医学の学際的分野において、先進的な研究を指導できる。

＊カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

学位授与に要求される能力を修得するために、臨床検査学専攻は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

博士前期課程

1. 共通科目では、臨床検査に関する専門知識をより深めるため、「生理機能検査学」、「人体システム生理学」、「研究情報処理方法」、「分子代謝生化学」を必修科目として配置する。
2. 専門科目では、研究能力をより深めるため、「臨床検査医学」と「臨床検査技術学」に分けて科目群を編成する。
3. 修士論文の作成など教育・研究および発表能力の開発に必要な研究プログラムを行うため、「臨床検査医学特別研究」および「臨床検査技術学特別研究」を配置する。

博士後期課程

1. 臨床検査技術から臨床検査医学にわたる知識の統合を深め、多様な研究テーマに対応するため、「生理機能検査学特論」、「病態情報解析学特論」、「病理検査学特論」、「感染生体防御機能解析学特論」、「臨床化学検査学特論」を共通の科目として配置する。
2. 個々の研究テーマについて深く考察し、創造的な視点から実験・解析、教育等を行い、学位論文を作成するため、「臨床検査学特殊研究」を必修科目として配置する。

(2) 授業科目一覧

臨床検査学専攻【博士前期課程】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
共通科目	生理機能検査学	1前	2			○			准教授 咲間妙子 講師 崎原ことえ
	人体システム生理学	1後	2			○			教授 鈴木幸一 教授 後藤一雄 准教授 藤原孝記
	研究情報処理方法	1前	2				○		教授(兼) 榎村浩一 講師 押鐘浩之
	分子代謝生化学	1後	2			○			教授 西澤和久
	小計(4科目)	—	8	0	0	—			
専門科目	臨床検査医学	細胞病理検査学講義	1前	2		○			教授 望月眞
		細胞病理検査学演習	2通	2			○		教授 望月眞
		分子生物学講義	1後	2		○			教授 鈴木幸一 講師 関玲子 講師 押鐘浩之
		分子生物学演習	2通	2			○		教授 鈴木幸一 講師 関玲子 講師 押鐘浩之
		臨床病態生理学講義	1前	2		○			教授 望月眞
		臨床病態生理学演習	2通	2			○		教授 望月眞
		画像生理情報解析学講義	1後	2		○			講師 崎原ことえ
		画像生理情報解析学演習	2通	2			○		講師 崎原ことえ
		臨床検査医学特別研究	1～2通	10			○		教授 滝川一 教授 西澤和久 教授 鈴木幸一 准教授 咲間妙子 講師 関玲子 講師 押鐘浩之
		小計(9科目)	—	0	26	0	—		
	臨床検査技術学	先端血液解析学講義	1後	2		○			准教授 福田晃子 准教授 藤原孝記
		先端血液解析学演習	2通	2			○		准教授 福田晃子 准教授 藤原孝記
		感染制御学講義	2前	2		○			教授 後藤一雄 教授(兼) 榎村浩一
		病原体検査学講義	1後	2		○			教授 鈴木幸一 教授 後藤一雄 教授(兼) 榎村浩一 准教授 松村充
		病原体検査学演習	2通	2			○		教授 鈴木幸一 教授 後藤一雄 教授(兼) 榎村浩一 准教授 松村充
		生体防御機能解析学講義	1前	2		○			教授 鈴木幸一 教授(兼) 榎村浩一 講師 黒田雅顕
		生体防御機能解析学演習	2通	2			○		教授 鈴木幸一 教授(兼) 榎村浩一 講師 黒田雅顕
		臨床検査技術学特別研究	1～2通	10			○		教授 滝川一 教授 鈴木幸一 教授 後藤一雄 教授 望月眞 教授(兼) 榎村浩一 准教授 福田晃子 准教授 松村充 准教授 藤原孝記 講師 黒田雅顕
		小計(8科目)	—	0	24	0	—		
教養科目	国際感染症・危機管理学特論	1又は2			1	○			教授 鈴木和男
	特別講義(疫学)	1又は2			1	○			Murray Mittleman
	特別講義(生物統計学)	1又は2			1	○			Garrett Fitzmaurice
	特別講義(行動科学)	1又は2			1	○			Ichiro Kawachi
	特別講義(保健医療政策学)	1又は2			1	○			Alastair Gray
	特別講義(産業環境保健学)	1又は2			1	○			Rose Goldman
	小計(6科目)	—	0	0	6	—			
合計(27科目)		—	8	50	6	—			

修了要件及び履修方法

共通科目から必修科目8単位、専門科目から専攻分野（臨床検査医学または臨床検査技術学）の講義4単位以上、演習4単位以上および特別研究10単位、専攻分野以外の講義4単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格すること。

臨床検査学専攻【博士後期課程】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	生理機能検査学特論	1・2通		2			○		准教授 咲間妙子 講師 崎原ことえ
	病態情報解析学特論	1・2通		2			○		教授(兼) 榎村浩一 准教授 福田晃子 准教授 藤原孝記
	病理検査学特論	1・2通		2			○		教授(兼) 榎村浩一 教授 望月眞
	感染生体防御機能解析学特論	1・2通		2			○		教授 鈴木幸一 教授 後藤一雄 教授(兼) 榎村浩一 准教授 松村充 講師 黒田雅顕
	臨床化学検査学特論	1・2通		2			○		教授 西澤和久 講師 関玲子 講師 押鐘浩之
	臨床検査学特殊研究	1～3通	12				○		教授 滝川一 教授 西澤和久 教授 後藤一雄 教授 鈴木幸一 教授 望月眞 教授(兼) 榎村浩一 准教授 福田晃子 准教授 松村充 准教授 咲間妙子 講師 関玲子 講師 黒田雅顕 講師 押鐘浩之
	小計（6科目）	—	12	10	0	—			
教養科目	国際感染症・危機管理学特論	1・2・3のいずれか			1	○			教授 鈴木和男
	特別講義（疫学）	1・2・3のいずれか			1	○			Murray Mittleman
	特別講義（生物統計学）	1・2・3のいずれか			1	○			Garrett Fitzmaurice
	特別講義（行動科学）	1・2・3のいずれか			1	○			Ichiro Kawachi
	特別講義（保健医療政策学）	1・2・3のいずれか			1	○			Alastair Gray
	特別講義（産業環境保健学）	1・2・3のいずれか			1	○			Rose Goldman
	小計（6科目）	—	0	0	6	—			
合計（12科目）		—	12	10	6	—			
修了要件及び履修方法									
専門科目から選択4単位以上および臨床検査学特殊研究12単位、合計16単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること。									

(3)2020年度 カリキュラムマップ

臨床検査学専攻【博士前期課程】

	DP1 臨床検査の基礎となる自然科学分野の専門的知識を有し、教育・研究を推進する能力がある。	DP2 臨床検査で行われる検体検査、微生物検査、生理検査、病理組織検査についての学術研究成果を理解、統合することによって、医療技術の実践・教育・研究を行うことができる。	DP3 臨床検査学と医学の学際的分野において教育・研究を行うことができる。
2年	(医) 分子生物学演習 (技) 生体防御機能解析学演習	(医) 細胞病理検査学演習 (医) 画像生理情報解析学演習 (技) 先端血液解析学演習 (技) 感染制御学講義 (技) 病原体検査学演習	(医) 臨床病態生理学演習 (医) 臨床検査医学特別研究 (技) 臨床検査技術学特別研究
1年	●人体システム生理学 ●分子代謝生化学 (医) 分子生物学講義 (技) 生体防御機能解析学講義	●生理機能検査学 (医) 細胞病理検査学講義 (医) 画像生理情報解析学講義 (技) 先端血液解析学講義 (技) 病原体検査学講義	●研究情報処理方法 (医) 臨床病態生理学講義 (医) 臨床検査医学特別研究 (技) 臨床検査技術学特別研究

●は必修科目、(医)は臨床検査医学の科目群、(技)は臨床検査技術学の科目群

臨床検査学専攻【博士後期課程】

	DP1 臨床検査の基礎となる自然科学分野の専門的知識を有し、より高度で先進的な研究を推進する能力を有する。	DP2 臨床検査で行われる検体検査、微生物検査、生理検査、病理組織検査についての高度な学術研究成果を理解、統合することによって、先進的な医療技術の研究開発を指導できる。	DP3 臨床検査学と医学の学際的分野において、先進的な研究を指導できる。
3年			●臨床検査学特殊研究
2年	病態情報解析学特論	生理機能検査学特論 病理検査学特論 感染生体防御機能解析学特論 臨床化学検査学特論	●臨床検査学特殊研究
1年	病態情報解析学特論	生理機能検査学特論 病理検査学特論 感染生体防御機能解析学特論 臨床化学検査学特論	●臨床検査学特殊研究

●は必修科目

(4)指導教員一覧

職名	氏名	研究内容
教授	滝 川 一	胆汁酸代謝と肝内輸送の研究
教授	西 澤 和 久	脂質膜とタンパク質の相互作用に関する構造化学的研究
教授	後 藤 一 雄	ヒトの疾患モデル動物の作出に関する研究
教授	鈴 木 幸 一	感染や組織傷害による自然免疫能活性化と甲状腺自己免疫疾患の関連 甲状腺疾患と生理機能に関わるmicroRNA発現の解析 抗酸菌のマクロファージ内寄生と排除機構 抗酸菌ゲノム非翻訳領域RNA発現と病原性との関連
教授	望 月 眞	組織形態学を中心とした臨床病理的な疾患解析
教授 (兼)	楨 村 浩 一	感染症遺伝子診断・治療および起因菌固定法の研究開発
准教授	福 田 晃 子	血液透析患者における鉄動態とヘプシジン-25との関連性
准教授	松 村 充	基質拡張型 β -ラクタマーゼ遺伝子およびメタロ- β -ラクタマーゼ遺伝子の構造と変異に関する細菌のメカニズム解析
准教授	藤 原 孝 記	造血幹細胞移植とヒト組織適合性抗原に関する研究 血小板膜糖タンパク特異的自己抗体に関する研究
准教授	咲 間 妙 子	睡眠障害の評価方法の改良についての研究
講師	関 玲 子	間葉系幹細胞の持つ軟骨分化・形成能と初期免疫系の関与を探索 自己免疫性疾患におけるHDLの役割とその効果、メカニズムを探索
講師	黒 田 雅 顕	免疫学的検査結果に干渉する血液中蛋白質の作用機序の解析
講師	崎 原 こ と え	非侵襲的脳計測法（脳波など）を用いた認知機能の解明
講師	押 鐘 浩 之	ミスフォールディング病の原因として重要なタンパク質の高次構造変化と凝集体形成機構の解析

救急救護学専攻

(1) 教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

＊教育目的

救急救護学専攻は、医療技術学研究科の目的に則り、傷病者の病態を医学的に解釈でき、その鑑別・判断能力と救急救命処置能力、高度な教育指導能力、かつ組織運営・危機管理等の実務能力を有する実践者、管理者、研究者、教育者の育成を目的とする。

＊ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

救急救護学専攻は、傷病者の病態を医学的に解釈でき、その鑑別・判断能力と救急救命処置能力、高度な教育指導能力、かつ組織運営・危機管理等の実務能力を有する実践者、管理者、研究者、教育者の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 救急救護活動における高い倫理観とコミュニケーション能力など豊かな人間性を有している。
2. 救急救護に関わる質の高い科学研究と提言ができる能力を有している。
3. 救急救護政策・行政の遂行、組織運営及び危機管理の高いマネジメント能力を有している。
4. 救急救護に関わる高度な医学・災害防災等の専門的知識・技能及び教育指導能力を有している。

＊カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

学位授与に要求される能力を修得するために、救急救護学専攻は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 救急救護領域の基盤の理解、質の高い倫理観、コミュニケーション能力を育成するため、「救急救護総論」、「救急救護倫理特論」、「コミュニケーション特論」を基礎科目として配置する。
2. 救急救護活動の理論的根拠の検討や研究方法を学ぶため、「保健統計学」、「救急救護学研究方法演習」を基礎科目として配置する。
3. 救急救護政策・行政の企画力と業務運営・危機管理能力、実務指導能力などの高いマネジメントが実践できる行政管理能力を育成するため、「救急救護総論」などの科目を基礎科目として、「救急救護政策・行政特論」などの科目を専門科目として配置する。
4. 救急救護領域の高度な医学知識・技能を修得し、医療の実務・指導能力を育成するため、「救急救護医学特論」、「災害・防災危機管理特論」、「救急救護教育指導特論」などの科目を専門科目として配置する。
5. 修士論文の作成など教育・研究および科学的思考能力の開発に必要な研究プログラムを行うため、「救急救護学特別研究」を配置する。

(2) 授業科目一覧

救急救護学専攻【修士課程】

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			担当教員
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
基礎科目	救急救護総論	1前	2			○			准教授 茂呂浩光 講師 高山祐輔
	保健統計学	1前	2			○			准教授 藤崎竜一 講師(非) 中原慎二
	救急救護学研究方法演習	1通	4				○		准教授 藤崎竜一 講師(非) 中原慎二
	コミュニケーション特論	1後	2			○			講師(非) 橋本章子 准教授 茂呂浩光 講師 高梨利満 講師 高山祐輔
	救急救護倫理特論	2前	2			○			准教授 茂呂浩光 講師 高梨利満 講師 菊川忠臣
	地域保健学	1前		2		○			教授 高橋謙造 講師(非) 坪倉正治 講師(非) 野田信一郎 講師(非) 山本真 講師(非) 石崎達郎
	海外救急救護体制特論	2前		2		○			教授 小菅宇之 教授 國府田洋明 准教授 茂呂浩光 講師 高山祐輔 講師(非) 中原慎二
	小計（7科目）	－	12	4	0	－			
専門科目	救急救護医学特論Ⅰ	1前	2			○			教授 小菅宇之 准教授 藤崎竜一
	救急救護医学特論Ⅱ	1後	2			○			教授 小菅宇之 准教授 藤崎竜一
	救急救護医学演習Ⅰ	2前		2			○		教授 小菅宇之 准教授 藤崎竜一
	救急救護医学演習Ⅱ	2後		2			○		教授 小菅宇之 准教授 藤崎竜一
	救急救護政策・行政特論	1後		2		○			教授 國府田洋明 教授 大滝恭弘 准教授 茂呂浩光 講師 高梨利満 講師 高山祐輔 特任教授 鈴木正之
	救急救護政策・行政演習	2通		4			○		教授 國府田洋明 教授 大滝恭弘 准教授 岩崎隆 講師 高山祐輔
	災害・防災危機管理特論	1後		2		○			教授 橋田要一 教授 大滝恭弘 教授 國府田洋明 准教授 茂呂浩光 講師 高梨利満 講師 菊川忠臣
	災害・防災危機管理演習	2通		4			○		教授 橋田要一 准教授 岩崎隆 講師 高梨利満 講師 菊川忠臣 助教 酒本端姫
	救急救護教育指導特論	1後		2		○			准教授 茂呂浩光 講師 高梨利満 講師 菊川忠臣 助教 酒本端姫
	救急救護教育指導演習	2通		4			○		准教授 茂呂浩光 准教授 岩崎隆 講師 高梨利満 講師 菊川忠臣 助教 酒本端姫
	救急救護学特別研究	2通	6				○		教授 國府田洋明 教授 小菅宇之 教授 橋田要一 教授 大滝恭弘 准教授 藤崎竜一 准教授 岩崎隆 准教授 茂呂浩光 講師 高梨利満 講師 菊川忠臣 講師 高山祐輔 助教 酒本端姫 助教 沖園義藤 助教 水戸部政美
小計（11科目）	－	10	22	0	－				
教養科目	国際感染症・危機管理学特論	1通			1	○			教授 鈴木和男
	特別講義（疫学）	1後			1	○			Murray Mittleman
	特別講義（生物統計学）	1後			1	○			Garrett Fitzmaurice
	特別講義（行動科学）	1後			1	○			Ichiro Kawachi
	特別講義（保健医療政策学）	1後			1	○			Alastair Gray
	特別講義（産業環境保健学）	1後			1	○			Rose Goldman
	小計（6科目）	－	0	0	6	－			
合計（24科目）		－	22	26	6	－			
修了要件及び履修方法									
① 基礎科目の必修12単位、専門科目の必修10単位、合計22単位を修得すること。 ② 専門科目の選択から特論2単位、演習4単位、合計6単位を修得すること。 ③ 選択から2単位以上修得すること。 ④ 上記①～③の合計30単位以上の修得に加え、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。									

(3)2020年度 カリキュラムマップ

救急救護学専攻【修士課程】

	DP1 救急救護活動における高い倫理観とコミュニケーション能力など豊かな人間性を有している。	DP2 救急救護に関わる質の高い科学的研究と提言ができる能力を有している。	DP3 救急救護政策・行政の遂行、組織運営及び危機管理の高いマネジメント能力を有している。	DP4 救急救護に関わる高度な医学・災害防災等の専門的知識・技能及び教育指導能力を有している。
2年	●救急救護倫理特論	●救急救護学特別研究	海外救急救護体制特論 救急救護政策・行政演習 ●救急救護学特別研究	海外救急救護体制特論 救急救護医学演習Ⅰ 救急救護医学演習Ⅱ 災害・防災危機管理演習 救急救護教育指導演習 ●救急救護学特別研究
1年	●救急救護総論 ●コミュニケーション特論	●保健統計学 ●救急救護研究方法演習	●保健統計学 ●救急救護研究方法演習 救急救護政策・行政特論	地域保健学 ●救急救護医学特論Ⅰ ●救急救護医学特論Ⅱ 災害・防災危機管理特論 救急救護教育指導特論

●は必修科目

(4)指導教員一覧

職名	氏名	研究内容
教授	國 府 田 洋 明	救急救護政策・行政、災害・防災危機管理
教授	小 菅 宇 之	救急救護医学
教授	橘 田 要 一	災害・防災危機管理、救急救護医学
教授	大 滝 恭 弘	救急救護政策・行政、災害・防災危機管理
准教授	藤 崎 竜 一	救急救護医学、救急救護教育指導
准教授	岩 崎 隆	救急救護政策・行政、災害・防災危機管理
准教授	茂 呂 浩 光	救急救護教育指導、救急救護政策・行政
講師	高 梨 利 満	災害・防災危機管理、救急救護教育指導
講師	菊 川 忠 臣	救急救護教育指導
講師	高 山 祐 輔	救急救護教育指導
助教	酒 本 瑞 姫	災害・防災危機管理
助教	沖 園 義 藤	救急救護教育指導
助教	水 戸 部 政 美	救急救護教育指導